

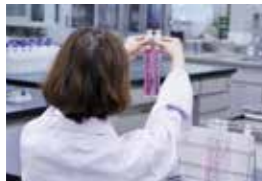
いま

安全な水の安定供給を実現

豊富な水源

神奈川県には相模湖や丹沢湖など、水道に利用する5つのダム湖があり相互に連携しながら水を供給しています。また、地下水が豊富な地域も多く、水不足の心配がほとんどありません。

24時間体制での管理



水質管理



水量監視

災害対策

地震にも強い水道管を設置し、災害発生時においても飲料水等を確保するため給水車を配備します。



この他にも、水道施設の維持・管理などの様々な業務により安定供給が実現しています。

みなさんが利用している水道水は、各市町村等の水道事業者から届けられています。

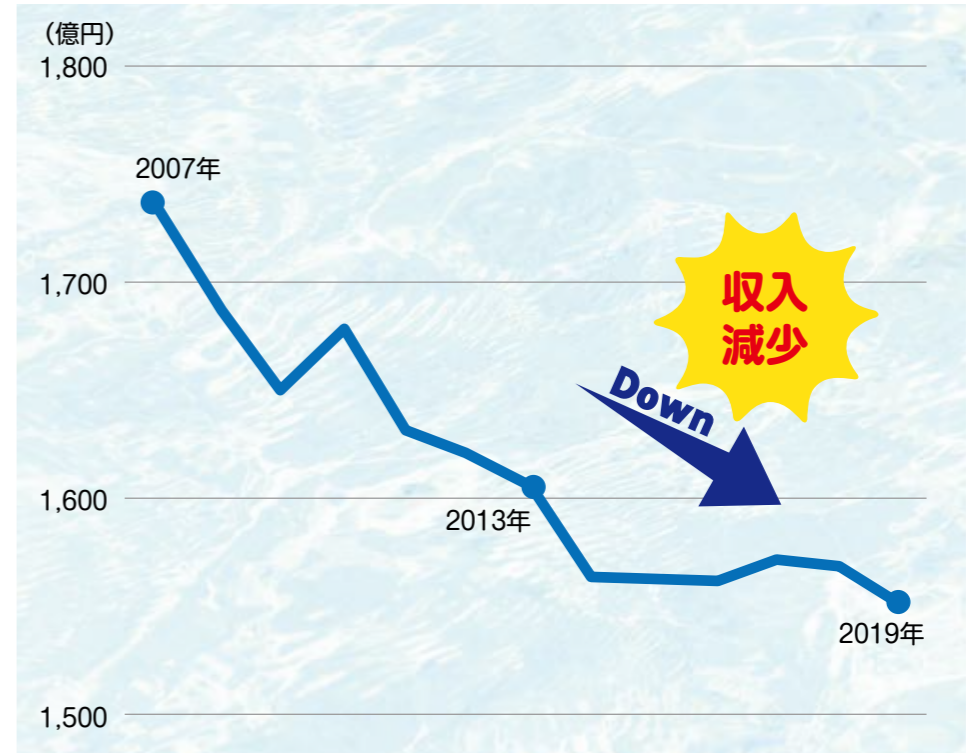


神奈川県、横浜市、川崎市、横須賀市の水道用水の一部は水道用水供給事業者である神奈川県内広域水道企業団により供給されています。

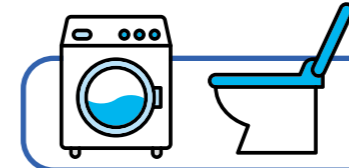
いま

水道料金収入の推移

県内水道事業の水道料金収入の推移



(公益社団法人 日本水道協会「水道統計」より)

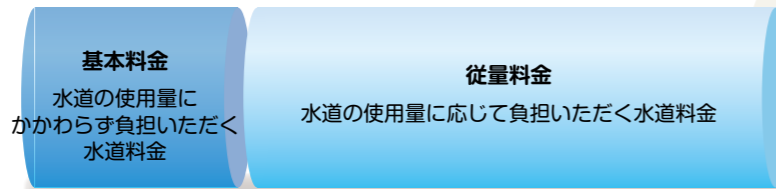


近年の節水型機器の高性能化・普及などによって、水道水の使用量が減少しています。

いま

水道事業者の収入と支出

収入

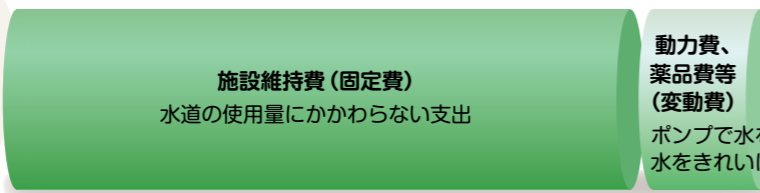


水道事業は県や市町村等で経営していますが、原則税金を使わずに、**水道料金のみ**で、経営しています。

水道事業の一般的な収入と支出の内訳イメージ

支出

水道水を届けるためにはダムや浄水場、水道管等を**日頃から維持・管理**をしなければなりません。



収入と支出の特徴 水道の使用量が**減少する**と → 収入も**減少する**
支出は**あまり変わらない**

いま

水道事業の経営努力

収入が減少していく中でも水道事業は経営努力により**水道料金を低く**抑えてきました。



施設統合により効率化を図ることで、**工事費や維持管理費削減!**

省エネ機器の導入等により、**電気料金削減!**

業務を民間企業へ委託することで、**経費削減!**

水道管を浅く設置する等の工夫をして、**工事費削減!**